

馬パラチフスによる流産に注意!!

令和3年12月31日、十勝管内において、道内では平成26年以来となる、馬パラチフスの発生が確認されました。

馬パラチフスの侵入防止・まん延防止を徹底!!

- 1 飼養衛生管理基準を遵守し、本病の侵入防止を徹底すること。
- 2 馬を移動する際、移動前後の車両等の消毒を徹底し、馬を導入した場合、異状がないことを確認するまでは隔離すること。
- 3 日頃の健康観察を徹底し、飼養馬が流産した場合は、直ちに獣医師又は家畜保健衛生所に連絡し、流産胎子を容器等に密封の上、家畜保健衛生所で病性鑑定を受検すること。
- 4 流産の原因が、本病や馬鼻肺炎等の感染症である恐れがあることを踏まえ、流産した馬房、飼養している器具等を直ちに消毒すること。
- 5 家畜保健衛生所による病性鑑定の結果が判明するまでの間、流産した馬は隔離し、他の馬と接触させないこと。

馬パラチフスとは…

- 馬パラチフスは、**サルモネラ・アボルタスエクイ**というサルモネラ属菌の感染が原因で、主に妊娠馬に流産を起こす疾病です。
- 流産は、妊娠後期（胎齢5～10か月）に多く、突然に起きますが、流産の1～2日前に発熱、漏乳、悪露等が確認される場合もあります。
- 本病の流産胎子や胎盤等には多量の菌が含まれているため、流産を確認した際は、**流産馬の速やかな隔離と消毒の徹底**が重要です。



流産胎子



馬房の消毒



馬体の消毒